Human Resource Solution Company
株式会社 キャリアデザインセンター

関係者 各位

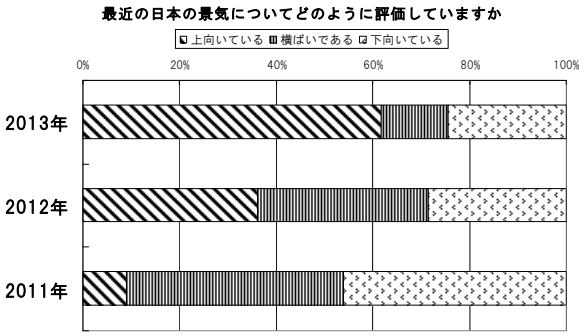
2013年10月17日（木）

日本経済が回復基調にあるにも関わらず、ビジネスパーソンの収入への関心は依然として高い
― 世界的大不況を経験した若手世代は、将来へ備えるために【収入重視】の傾向―
【キャリアデザインレポート 2013―25～34 歳、現役会社員の意識調査】

株式会社キャリアデザインセンター（以下 CDC、本社：東京都港区、代表取締役社長兼会長：多田弘實）は、若手ビジネスパーソンを対象に仕事・転職・キャリア意識に関する調査（以下、本調査）を実施いたしましたので、お知らせいたします。

●

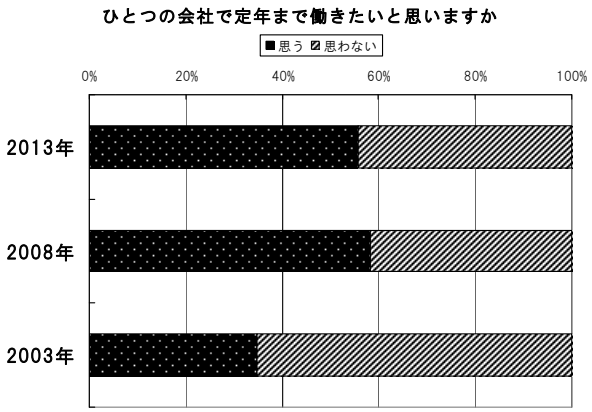
2008 年のリーマン・ショック、2011 年の東日本大震災を経た直近数年の調査結果は、過去の不景気や雇用不安を経験したことから、ビジネスパーソンの仕事への考え方が「リスク回避型・安定志向」となっていることが分かった。



本調査を行った 2013 年は、震災復興や消費増税に伴う駆け込み需要などにより、GDP や消費者物価は徐々に上昇しており、足元の国内景気は回復基調にある。また、本調査に回答した若手ビジネスパーソンも、半数近くが景気が「上向いている」と感じており、仕事に対する意識の変化があるかと思われたが、今回も「将来への不安に備えるために、収入を重視するビジネスパーソン」の実態が浮かびあがり、過去の不況からくる将来への不安が依然として色濃く残る調査結果となった。

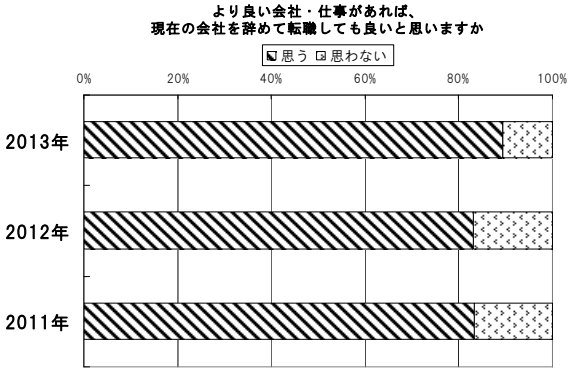
１．「定年まで働きたい人」と「転職したい人」との二極化

日本の特徴的雇用制度である終身雇用や年功序列の給与体系は、近年では崩れつつある。本調査における若手ビジネスパーソンのうち、定年まで働きたい人とそうでない人の割合は、どちらも同程度と、5 年前のビジネスパーソンの傾向とほぼ同様であった。しかしながら、10 年前のビジネスパーソンと比較すると、定年まで働きたい人は少数派から過半数を超える割合に大きく変化しており、ひとつの会社に定年まで勤めたいという意識



が根強く残っていることが伺えた。

一方で、「より良い会社や仕事があれば、現在の会社を辞めて転職をしても良いと思いますか」という質問には、約９割が「思う」と回答しており、これは、昨年と比べ増加している。つまり、現在の会社で定年まで働いても良いとは思っているが、より良い条件であれば転職しても良いと考える人が増えており、会社に対してより良い条件を求めるビジネスパーソンが増加傾向にあることが分かった。



２．良い会社の条件第１位は「給与・賃金待遇が良い」

昨今、インターンシップを積極的に取り入れる企業や、社内の研修制度を充実させる企業が増えるなど、ビジネスパーソンのキャリア形成の重要性が認識されているが、若手ビジネスパーソンの本音は、「給与・賃金」といった収入面に対して、好条件を会社や仕事へ求めていることが分かった。これは、10 年前からの調査結果と比較しても、より収入に重点を置くようになってきていることが分かる。

	より良い会社や仕事の条件とはどのようなものですか（複数回答）	転職先企業を決定した理由は何ですか（複数回答）
	2013 年	2003 年
1 位	給与・賃金待遇が良い（85.0）	仕事のやりがいがある（41.9）
2 位	仕事のやりがいがある（66.3）	給与・賃金待遇が良い（36.0）
3 位	会社の安定性・成長性が高い（53.2）	希望職種に就ける（20.4）

（単位:%）

若手ビジネスパーソンの意識がより収入へシフトしている背景としては、100 年に一度と言われるリーマン・ショックから、経済や雇用の不安定さを経験したことが大きく影響していると考えられる。20 代はリーマン・ショック後に社会に出ており、30 代はリーマン・ショックを若くして経験している。そのような不遇な環境で過ごしてきたことで、若手ビジネスパーソンは将来への漠然とした不安を拭えず、収入面で将来への備えをしたい、という思いが強いのではないかと推察される。また、男女ともに収入増加への意識が高いのは、男女双方が家計を支える社会になりつつあるという時代情勢も背景にあるようだ。

３．変化する「転職する理由」

これまで、転職といえば、自身の能力を伸ばすためや、現在の職場ではできない仕事をするためであることが多く、ビジネスパーソン自身がキャリアアップするための手段として捉えられてきた。しかし、本調査では、収入アップに効果的な手段として、出世や昇進に次いで、専門的なスキルの習得や転職が上位に挙げられており、専門的なスキルの習得や転職は、さらなる収入アップのための手段となっている実態が判明した。

４．世界的大不況を経験した若手世代は「収入重視」

世界的大不況と呼ばれたリーマン・ショックを経験した若手世代は、不況による雇用不安や経済の不安定さが実体験として残っており、景況感が上昇傾向にある現在においても

将来への不安を感じているようだ。そのため、日本経済が回復傾向にある今後も、ビジネスパーソンの「収入重視」の傾向は続くと思われる。

少子高齢化で若手の労働力が減少していく中、企業成長のため、優秀な人材を確保したいとする企業は多い。そのような企業にとって、従業員の労働に見合う給与・賃金を提供していくことが、今後の企業成長の重要なポイントとなってくるだろう。

■ キャリアデザインレポート 概要 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【キャリアデザインレポート】は、キャリア転職サイト『＠type』を運営するCDCが、首都圏在住の現役会社員に対し、「若手ビジネスパーソンの仕事・転職・キャリアの意識」を経年的に把握する目的で調査を実施しているもので、今年で 16 回目となる。

【2013 調査概要】

調査名：キャリアデザインレポート 2013(No.16)

調査目的：仕事・転職・キャリアについて、若手ビジネスパーソンの意識を探る

調査対象：25～34 歳・大卒以上・現在正社員又は契約社員として就業中の男女

調査地域：首都圏 （東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城の各都県在住者）

調査方法：インターネットリサーチ

調査時期：2013 年 7 月 8 日（月）～ 2013 年 7 月 9 日（火）

有効回答数：全体 620（男性 372／女性 248）

※詳細はこちらをご覧ください。

PDF：http://type.jp/ir/report/cd_report2013.pdf

■ 株式会社キャリアデザインセンター 会社概要 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

本社所在地■〒107-0052 東京都港区赤坂 3-21-20 赤坂ロングビーチビル

資本金■5 億 5866 万円

設 立■1993 年 7 月 8 日

従業員数■312 名（2013 年 9 月 30 日現在）

代表者■代表取締役社長兼会長 多田 弘實

事業内容■

①キャリア転職の専門情報サイト『＠type』『女の転職＠type』『営業の転職＠type』等の運営

②適職フェアの開催

③人材紹介事業（厚生労働大臣許可 13-ユ-040429）

④一般労働者派遣事業（厚生労働大臣許可 般 13-304673）

⑤質の高い就職活動を情報誌、イベント、情報サイト、人材紹介で支援する『就活 type』サービス

⑥パンフレット、ノベルティー採用 HP 作成などのアウトソーシング事業

⑦Web マガジン『エンジニア type』『Woman type』の企画・編集・運営

など、企業の採用活動をサポートする総合的なソリューションサービスを提供しています。

■ 本件に関するお問い合わせ先 ■

株式会社キャリアデザインセンター CDC 総合研究室

E-mail：reserch@type.jp Tel：03-3560-1601 Fax：03-3560-1605